

立命館大学技術士会 第14回総会 ご案内

令和 5年(2023年) 6月吉日
立命館大学技術士会 会長 土屋光弘

立命館大学技術士会会員各位

立命館大学技術士会は、2009年12月の設立以降、14年間その活動を継続してきました。これもひとえに会員皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

この間、①会員相互の親睦②大学の発展に貢献③会員の技術レベルの向上と本会の発展・拡大④技術士を目指す母校後進への支援⑤地域及び社会活動への技術支援、助言等を志向するなど、活動も定着してきました。また設立当初から技術士受験指導を毎年継続し、延べ44名の技術士を輩出しています。

大学では、6月に「めざせ！技術士」、7月には「立命技術士懇談会」を開催し、公務員・ゼネコン・コンサルそれぞれの立場で活躍する会員技術士が、学生達に卒業後の技術者としての社会活動のあり方や実社会での経験談をお話します。

また一昨年度から環境都市工学科の授業担当講師として、会員技術士が技術士制度等の講義を担っています。

こうした活動内容のご報告と本会へのご意見を賜るため、第14回総会を開催します。現在、新型コロナの感染状況は小康状態ですが、その動向を注視しつつ、現時点では、防止対策を十分に施した上で開催する予定です。

なお、総会の議案は会則第19条に則り、出席者の過半数をもって議決いたします。

記

1. 開催日時 : 令和 5 年 6 月 24日(土)
2. 開催場所 : (一社)中央電気倶楽部 (215号室)、親睦会は3F大食堂
3. 開催内容 : 総会 13:00~14:00
講演会 14:00~17:00
親睦会 17:00~18:30
4. 回答期限 : 6月19日(月)(下記、企画・窓口担当メールにお願いします。)
総会、講演会、親睦会参加の有無を返信用データにて回答ください。

なお、講演会は、会場及びZoomを使用したWeb併用で開催いたします。講演会参加希望者は、連絡用メールアドレスを下記、企画・窓口担当メールアドレスまでお知らせください。講演会開催の前日に、参加用URLをお知らせします。ただし、講演会は時間の都合上、当日は聴講のみで質問等受付出来ません。

事務局 企画・窓口担当 E-mail rits.kikaku.mado@gmail.com

URL: <http://alumni.ritsumeijp/gijutsusikai/>

Fax : 075-951-1304

立命館大学技術士会 第14回総会 次第

2023年 6月24日(土)

13:00 ~ 17:00

(一社)中央電気倶楽部 215号室

第 14 回 総 会 (13:00~14:00)

- | | | | |
|-------------|----|---------------------------------|-----------------|
| ① 開会および司会挨拶 | …… | 事務局 | |
| ② 会長挨拶 | …… | 土屋光弘会長 | |
| ③ 議長選出 | …… | 会則により会長 | |
| ④ 議案審議 | …… | 1) 第1号議案
第13期事業報告 | ……事務局(幹事長) |
| | | 2) 第2号議案
第13期決算報告および監査報告 | ……事務局(幹事長、会計監事) |
| | | 3) 第3号議案
第14期事業計画(案)および予算(案) | ……事務局(幹事長) |
| | | 4) 第4号議案
立命館大学技術士会会則改定 | ……事務局(幹事長) |
| | | 5) 第5号議案
第14期役員人事(案) | ……事務局(幹事長) |
| ⑤ その他 | …… | 令和4年度技術士合格者紹介 | |
| ⑥ 閉会の辞 | …… | 事務局 | 以上 |

講 演 会

① 岡井 有佳 様 (14:00~15:30)

立命館大学理工学部環境都市工学科 教授

演題：「パリにおける人中心の都市空間への取り組み」

② 伊藤 英 様 (15:30~17:00)

株式会社A.L.I. Technologies 執行役員兼営業部長

演題：「ドローン前提社会の到来」
～ ドローン・エアモビリティの過去・現在・未来について ～

< 第 2 部 > …… 親睦会 (17:00~18:30)

会 費：1人 5,000円

会場は、中央電気倶楽部 3F 大食堂

講演者紹介および講演概要

講演1. 岡井 有佳(おかい ゆか)

立命館大学理工学部環境都市工学科 教授
UDCBK(アーバンデザインセンターびわこ・くさつ) センター長



演題：「パリにおける人中心の都市空間への取り組み」

概要： 戦後の人口増加とともに都市は拡大してきており、車を前提とした都市も少なくありません。わたしたちが住んでいる街は、人口減少社会において、誰もが安心して住み続けられる都市構造になっているのでしょうか。フランスでは、約20年前から、車から人中心のまちづくりへの転換が行われ、大きな変化がみられます。日本でも姫路駅や御堂筋などの駅前空間や道路空間での都市空間の再編が始まっていますが、まだまだ緒に就いたばかりです。フランス、特にパリでの人中心の都市空間の取り組みを中心に紹介しながら、日本での都市空間のありかたについて議論したいと思います。

学歴： 京都市生まれ。専門分野は、都市計画、まちづくり。
建設省(現、国土交通省)入省
パリX大学都市整備・地域開発高等専門研究課程修了
パリ・ラ・ヴィレット国立高等建築学校、OECD(経済協力開発機構)
東京大学先端科学技術研究センター、パリI大学バンテオンーソルボンヌ都市地理学研究所(CRIA)客員研究員などを経て現職。

職歴： 主たる著作は、『図説 都市計画』(共著、学芸出版社、2022年)、『近代建築法制100年 市街地建築物法適用六大都市の都市形成と法制度』(共著、技報堂出版、2022年)、「フランスの広域行政組織～都市計画の権限における役割～」(田中宏編著『協働する地域』、晃洋書房、2020年)、「ゴールド(フランス)-南仏の美しい村」(松原康介編著『地中海を旅する62章』、明石書店、2019年)、「フランスの広域計画」(大西隆編著『広域計画と地域の持続可能性』、学芸出版社、2010年)、など。

資格： 博士(工学)東京大学、一級建築士

講演2. 伊藤 英(いとう あきら)

株式会社A.L.I. Technologies 執行役員兼営業部長



演題：「ドローン前提社会の到来」

～ドローン・エアモビリティの過去・現在・未来について～

概要： 近年ドローンを使った調査・点検手法が急速に発達してきている。我が国においては訪米に先んじてドローンの法整備を進めており、インフラ長寿命化計画のもとで国土交通省が管轄している社会アセットに対してドローン点検の導入が進んでいる。ドローンに関するハード・ソフトの技術革新とともに、点検だけでなく、監視、物流、薬品散布など、様々な役割へと広がりをを見せている。近年の国内外のドローンのトレンドと共に、2025年に大阪万博でデビュー予定の空飛ぶクルマの動向まで、これからの「ドローン前提社会」についてお話したいと思います。

学歴： 1983年東京都生まれ
2006年5月 University of California Santa Cruz Film and Digital Media学部卒業

職歴： 2006年に米国カリフォルニア州にて大学卒業後、同州ロサンゼルスにてメディア事業に従事。
日米を行き来しながら、広告やテレビ番組、映画、展示会など、マルチメディアで活躍。
2018年よりシンガポールにてWith World Pte. Ltd.を設立し、日本の広告代理店やメディア企業のアジア諸国での事業展開をサポート。
同年、マレーシア発のドローンスタートアップであるAerodyne Groupに参画し、同社の日本人であるエアロダイナミクス株式会社の代表取締役社長に就任。世界No1のドローン企業に選出されるAerodyne Groupを通じて得られた海外でのドローン導入の豊富な先行事例を、日本企業に対してコンサルティングとして提供する。
2022年7月には株式会社A.L.I. Technologiesの執行役員に就任。

一般社団法人 中央電気倶楽部案内図

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

TEL 06-6345-6351 (代)

FAX 06-6345-6877

- 大阪駅より徒歩12分
- JR北新地駅より7分
- 地下鉄四つ橋線
西梅田駅より6分
(堂島地下街南詰
C-93番出口を出る)
- 京阪中之島線
渡辺橋駅より5分
- 印は自動車の一方通行

